日本ミツバチの飼育と観察ノート

【Ⅳ】

平成２２年（２０１０）１月から

平成２２年　１２月末まで

掃　部　　彌

平成２２年度は昨年１０月に重箱から巣枠式に変更した可動巣枠式を主に観察し記録する。

平成２２年１月１日

大阪府環境農林水産部　動物愛護畜産課　畜産衛生グループへ「みつばち飼育変更届」と２２年度の計画を郵送する。

平成２２年１月２０日（水）晴れ　最高気温１６度

今日は春の陽気である。蜂たちが巣箱から出て盛んに活動している。夕方遅くまで蜜を集めに飛んでいた。

平成２２年１月３０日（土）晴れ　気温が１１度

花しょうぶの草引きをしていると、ミツバチが枯れ草から水を吸っているのを見かける。しばらく吸い帰ってゆく。またやってきて水を吸って帰っていった。

平成２２年２月２０日　晴れ時々くもり

巣箱の床を掃除する。巣くずが多く溜まっている。

平成２２年２月２４日（水）晴れ

気温が上がり蜂の活動は上々である。

今日は日本列島ポカポカ陽気となり気温は２０度を越えて、５月上旬から下旬並みの陽気となる。ここ枚方市では２１．２度となり２月としては観測史上最高の記録となる。

平成２２年３月８日（月）曇り時々晴れ　10 度

肌寒く感じる気候です。

ミツバチは畑の、サクランボ、ネコヤナギ、水菜の花に来て蜜や花粉を集めている。梅の花は終わる。

ネコヤナギ

平成２２年３月１２日（金）薄曇り　１６度

※巣箱１号を点検する。

秋に満杯に詰まっていた上段の巣枠は、蜜が少し残っている程度である。

巣は少しだが増えている。

下段の巣枠は中央に子供の育児室となっている。その周囲は空である。

王台の気配は見当たらない。

※巣箱２号も同じ様子で活発に活動している。

巣枠１号

トサミズキ

巣枠２号

平成２２年３月１８日

ヒヨドリの大群が巣箱の傍の樹木（クヌギ）にやって来て騒ぐため、ツバチが巣から出られず困っているので木にネットをかける。その後はヒヨドリがやってこないのでミツバチはいつものように活発になった。

平成２２年３月２７日　晴れ　１１度

巣箱（巣枠２号）でオスバチの姿を確認する。

平成２２年３月２８日　曇り

※巣箱（巣枠１号）の点検

上段の蜜はほぼ食べ尽くし空の状態である。下段はほんの少し蜜がたまっている。蜂の数も少しだが増えているように見える。オスバチの数は少なく、オスバチの巣房も少し作られている。王台の形跡は見られない。

※巣箱（巣枠２号）の点検

上段に蓄えていた蜜はほぼ空である。
下段の蜜も少ない。蜂の数は少し増えているようである。
オス蜂も少し見られる。
王台は作られていないようである。

巣枠２号
外から２枚目の巣枠

巣枠２号
外から４枚目の巣枠

巣枠２号
雄蜂の巣房が見える（蓋に小さな穴が見える）

西洋蒲公英（タンポポ）

平成２２年４月４日　晴れ
　巣箱の床を清掃する。

平成２２年４月６日　晴れ　２０℃
　午前１１時頃、重箱式１号の巣箱から分蜂が始まる。
東南の風に乗り風下へ移動したので水をかけて（散水）し、早く定着さそうとしたが効果がなく、約２０ｍ離れた紅葉の根元の枝に集合する。午後２時頃巣箱（２号）へ取り込む。
　巣枠１号を点検する。
　　上段の枠には蓄えた蜜はなくなっている。
　　下段には多くの蜂が多く、子供も多く生まれている。
　　王台が作られている形跡はない。
　巣枠２号も同様である。

巣枠１号
勢力が強く巣枠は満杯

巣枠２号
勢力が弱く巣の伸びが遅い

平成２２年４月１３日　曇り　暖かい

重箱式１号より再び分蜂する。桜桃（さくらんぼ）にしかけた集合器に集まる。これを巣枠式（３号）に取り込む。

平成２２年４月１４日

巣枠３号へ砂糖水（４５ｃｃ）を入れる。

平成２２年４月１５日　曇り　気温６℃～１１℃と寒い

巣枠３号の昨日の砂糖水が空になっているので午後３時に追加する。

平成２２年４月１６日　雨

巣枠３：天候が雨なので砂糖水を午前９時半ごろと午後４時ごろの２回いれる。

平成２２年４月１４日

巣枠３：砂糖水を午後４時頃追加する。

平成２２年４月１５日　曇り

巣枠３：砂糖水を午後４時頃追加する。

平成２２年４月１６日　雨

巣枠３：砂糖水を午前９時半ごろと午後４時ごろの２回いれる。

平成２２年４月１７日　晴れ

巣箱（重箱１号）より３回目の分蜂が起きる。

平成２２年４月１９日　晴れ

巣箱（重箱３号）より４回目の分蜂が起きる。

平成２２年４月２２日　雨

巣枠３号と重箱３号へ砂糖水を入れる。

このところ曇りや雨の日が多く蜂の働く時間が短い。

平成２２年４月２５日　快晴　４度～１８℃

※巣枠１号を点検する。

下段の６枚の巣枠内にほぼいっぱいの巣が作られている。子の巣も多く作られている。

蜜の貯蔵は非常に少ない。

雄バチの数も増えている。
王台は作られていない。
巣枠内は湿度が高く床にはナメクジが入り込んでいる。

※　巣枠２号を点検。
上段の枠は蜂がまばらで蜜は貯まっていない。
下段の枠は点検せず。
雄蜂が少ない。
巣の中は乾燥しておりナメクジは入っていない。

※　巣枠３号を点検
上段の枠は巣礎が貼ってあるのですでに巣がつくられている。
すこぶる活発である。

平成２２年４月２６日　晴れ

巣枠１号の上段の枠を撤去していたが、蜂の数が増えたので保管してあった巣枠を戻す。

蜂が外へ出だした。

雄蜂の姿が多く見られる

平成２２年５月２日　晴れ

※巣枠１号を点検

王台が１個できている。

４月２６日に入れた上段の巣枠に蜜が貯まり始めている。

雄蜂がかなり多くなっている。

※巣枠２号を点検

上段の枠に蜜が貯まり始めている。

王台はできていない。少し元気がない。

平成２２年５月８日　晴れ

巣枠１号より分峰が始まる。

集合板に集まった分蜂群

平成２２年５月９日　晴れ

※巣枠１号に王台が３個作られているが卵は産み付けられていない。

※巣枠３号は上段の枠に子育てと貯蜜が行われている。

下段の枠は巣礎のみで巣が作られていない。

巣枠１号の上段巣枠

巣枠１号の下段巣枠

王台が見られる。

平成２２年５月１５日　晴れ

巣箱の点検のとき蜂を圧死するので上段と下段の間に１０mmの板を入れて隙間を作る。これにより隙間の間隔が約１５mmとなる。

平成２２年５月１８日　晴れ

巣枠２号を点検

上段の巣枠は枠の隅まで巣づくりか完了している。子育てと貯蜜が行われている。下段に巣枠１枚を追加する。６枚となる。

周囲や枠の外に巣を作っているので取り除く。

平成２２年５月２２日　晴れ

※巣枠１号を点検する。

巣虫の発生なし。上段の巣枠は蜜がほぼ満たんとなる。

王台らしきものが３個見られるが幼虫はいないようである。

下段も子育てが順調である。

※　巣枠２号では

上段の２枚の巣枠は蜜も貯まっていない。４枚は９割ほど貯まっている。

下段の６枚は子育てが順調のようであるが、王台は作られていない。

※　巣枠３号では

下段へ巣枠を１枚追加する。これで上下格７枚となる。

活動はすこぶる順調である。

巣枠を１枚追加する

平成２２年５月２６日
　モチとウメモドキの木が開花する。

平成２２年５月２９日　晴れ
　巣箱（特定できず）より分蜂する。

平成２２年６月１日　晴れ後曇り
　※　巣枠１号の採蜜を行う。
　　巣枠３枚分を分離機にかける。残り３枚はそのままとする。
　　蜜の糖度：プリズム式で８１度、デジタルで８０．７度。
　　蜜の量は３枚で１．７２kg。
　※　巣枠２号を点検する。
　　雄蜂の巣が見当たらない。しかし雄蜂は多い。
　　外の枠２枚には蜜が貯められていない。そこでこの枠を中央に差し込む。
　※　下記は自作の遠心分離器（W―１号）です。人力でまわします。

蜜蓋を少し剥いだ枠

平成２２年６月３日　晴れ

大阪府家畜保健所より腐そ病の検査に見える。

すべての巣箱に異常はなかった。

平成２２年６月７日　曇り

巣枠３号を点検する。

上段の巣枠はほぼ蜜で埋まり蓋がけがされている。

枠外の無駄巣を取り除く。

平成２２年６月９日　晴れ

巣箱３号の採蜜を行う。巣枠の一部で幼虫がいたので、１枚のみとする。

１枚で５００ｇの蜜がとれた。糖度は８２度。

平成２２年６月１２日　晴れ

※　巣枠１号を点検する。

上段の枠へは順調に貯蜜が行われている。活発で精力も強いようである。

※　巣枠２号を点検する。

上段に新しく入れた巣枠には貯蜜されていない。総体に蜜の貯まりが悪い。動きに活発性が見られず群が弱ってきているようである。

平成２２年６月２１日　曇り　巣箱の点検と蜜搾りをする。

※　巣枠１号

巣虫の発生は見られない。非常に活発である。

上段の枠は９割以上蜜が貯められている。

枠と枠の隙間が少し広いのでこの間に巣を作っている。

蜂の数が増えている。

＊上段の枠１枚を取り出し、両面の蜜を取る。

※　巣枠２号

巣虫の発生が確認できない。大きい百足と黒い蜘蛛が住んでいた。

上段の新しく入れた巣枠に蜜を貯める気配がない。

４枚の巣枠には枠をはみ出して厚い巣が作られている。

蜂の数が１号に比べて少なく勢力も弱い。

＊２枚を持ち帰り採蜜する。

※　巣枠３号

巣虫の発生も無く、非常に勢力も強く動きも良い。

蜂が下段の枠に団子状になっている。また点検口まで溢れている。

上段の巣枠７枚を取り出し無駄巣を取り除く。

あまりにも蜂が多いので、６cm の枠を上段の箱の上に継ぎ足し空間を

作る。

＊　北の端から４枚の巣枠を取り出し、片面の蜜を搾る。

＊　今日の蜜の量：三つの巣からは２．６kg：糖度は７９度。

上記の巣枠２号は、枠と枠の間隔が広いためはみ出して作られた巣です

平成２２年６月２７日　曇り

※巣箱（重箱１号）より分蜂する。

※巣枠１号より小さな分蜂が起きる。

平成２２年７月２日　曇り

巣枠３号の箱が蜂で溢れたので、６月２１日に入れた枠を取り外し、新たに巣箱を追加し、巣礎を張った７枚の巣枠を入れて継ぎ足す。

平成２２年７月４日　曇り時々晴れ

巣箱３号を点検。

７月２日に入れた巣枠には蜂がびっしりと張り付き巣礎の板へ新しい巣を作り始めている。

蓋の下へ厚さ１０mm の棒を入れ換気を図る。

平成２２年７月５日　晴れ時々曇り

※　巣枠１号へ巣箱を継ぎ足す。４枚の巣枠（巣礎入り）を入れる。

※　巣枠２号は幼虫も少なく元気がない。す虫は発生していないと思われる。

平成２２年７月１９日　晴れ

巣枠３号の屋根の下に蜜蜂が群がっている。気温が高いためと思われる。

外に溢れだした蜂

平成２２年７月２０日　晴れ

※　巣枠１号を点検。

群は統制が取れ安定している。蓋を開けても攻撃はない。

無駄巣も多いので取り除く。

※　巣枠２号を点検。

群全体に元気がない。上段の巣枠にも蜜が少ない。

下段の巣の色がこげ茶色で幼虫がほとんど見当たらない。

蜜蜂の体の色も黒くテカテカ光って見える。警戒心も強くさかんに攻撃をかけてくる。

平成２２年８月３日　晴れ

ヤブガラシと蜜蜂

平成２２年８月１７日　晴れ　３６℃

巣枠２号を点検。

上段の枠に蜜をためている様子もない。ゴキブリが５匹もいて巣をかじっている。そこで上段の巣枠を取り除く。

働き蜂の色も黒く、巣全体がイライラしているようで、しつこく攻撃をかけてくる。

平成２２年８月１８日　晴れ　３７℃

巣枠１号を点検

７月５日に入れた巣枠へ蜜をためつつあるが、空きが多い。

統制がとれていると思われる。夜は多くの蜂が夕涼みに出ている。

巣枠２号を点検。

元気がないので蓋を開けるとなんとスムシがいっぱい。すべての巣枠に大量に発生している。巣は壊滅状態である。再生は望めそうもない。

スムシに食害された巣

巣枠１号を下から写す。

８月３０日
重箱式３号
新しい巣が伸びていない
ようである。

８月３１日
巣枠３号の下から写す。

平成２２年９月７日　晴後夕方から小雨　３４℃
　朝夕の気温も少し下がる。この朝は２７℃となる。外にいた蜜蜂も箱の中へ入った。

平成２２年９月１５日　晴れ　やっと涼しくなる
　巣枠３号の採蜜を行う。
　巣枠４枚の両面を搾る。
　蜜は１．７kg で糖度は７９．０度

平成２２年９月２２日　晴れ
　巣枠１号の採蜜を行う。
　巣枠４枚の両面を搾る。
　蜜は２．４５kg で糖度は７９．５度

平成２２年１０月７日　晴れ
　※　巣枠１号の２枚（両面）を採蜜する。
　※　巣枠３号の３枚（両面）を採蜜する。

１号と３号合わせて２．６kg採れる。糖度は７９．２度。

※ 重箱式３号は上の一段を採蜜する。
蜜の量は４．５kg、糖度は８１．５度。

平成２２年１１月３日 曇り

巣枠３号を運搬するため、薄暗くなり外勤バチが帰ったのを確かめて、荷造りをし、車に積み込む。

平成２２年１１月４日 晴れ

午前６時出発しイチゴ農家のハウスに午前７時３０分到着､直ちに設置する。
（１１月１４日に確認すると盛んに活動しているとのこと・・・まずはひと安心）

ツワブキの花

平成２２年１１月１０日 晴れ

※ 巣枠１号を点検する。
上段の４枚は蜜がほぼ満杯の状態である。２枚は片側のみ８割がた蜜が貯まっている。しかし１枚は全く蜜が貯められていない。
下の段は確認していない。

※ 重箱式３号も異常なく活発である。

巣箱（重箱式３号）
下から見たところ
９月から伸びていない

巣箱（重箱式３号）
巣の上から見たところ

巣枠１号
下から見たところ

懸崖菊とミツバチ

巣枠１号
南端の巣枠（２枚）
蜜が両面に貯まっていない

中央付近の巣枠
両面共に蜜が貯められている（４枚）

北端の巣枠（１枚）
蜜が両面に貯まっていない

麻の布袋を切って覆いをして蓋をかける

平成２２年１２月２日　晴れ

巣枠式１号を点検

床に巣脾の屑が少し多くなってきた。色は焦げ茶色が多い。

巣箱３号(重箱式)を点検。

巣脾のくずは少ない。花粉も落ちている。屑は薄い茶色である。

ポリゴナム（タデ科）
（12 月 3 日）

平成２２年春の分蜂の記録

月・日	天　　候	巣　箱　番　号	備　　考
４月６日	晴れ：２０度	重箱式１号（１回目）	かなり大きい
４月１３日	曇り	重箱式１号（２回目）	
４月１７日	晴れ	重箱式１号（３回目）	
４月１９日	晴れ	重箱式１号（４回目）	
５月８日	晴れ	巣枠式１号（１回目）	大きい
５月９日		特定できず	非常に小さい
６月２７日	曇り	巣枠式２号（１回目）	非常に小さい
６月２７日	曇り	重箱式１号（５回目）	非常に小さい

注：重箱１号は多くの分蜂があり、その後の勢力が落ちる。

重箱１号よりの分蜂が多いのは、過剰な防寒と早春の暖かさが影響し早くから蜂が生まれていたものと推測される。

巣枠式は分蜂が遅いように思われる。

巣枠式２号は勢力が弱く分蜂が遅い。